

# 森のひろば

近畿中国森林管理局

大阪市北区天満橋 1 - 8 - 7 5

〒530-0042 TEL 050-3160-6763

<http://www.kinki.kokuyurin.go.jp>

## 色彩の豊かな人工林を目指して



高野山国有林（和歌山県）：写真正面のスギ、ヒノキの人工林（明治42年植栽）は、平成10年に複層伐（50%）を実施した後、台風により一部風倒木（右尾根下部）が発生し現在に至る。

11月13日（火）、高野龍神スカイライン沿線にある高野山国有林内において、大学等の研究者や府県の行政担当者等を交えて、景観等に配慮した人工林施業のあり方について検討会を行いました。

【関連記事は4頁】



この用紙は、日本の森林を育てるために間伐材を使用しています（間伐材10%+古紙90%）



# 第6回 森と木の絵画コンクール



近畿中国森林管理局では、「森と木」をテーマとして絵画に取り組んでもらうことにより、子どもたちが森林や自然とふれあうきっかけとなるよう、毎年絵画コンクールを開催しています。

今年のコンクールでは、大阪市内39校の小学校から1222点の応募があり、洋画家の山田倫子氏を審査委員長に迎えて審査を行った結果、74点の入選作品を選出しました。

ここでは、入選作品の中から力作18点を紹介します。



金賞 「こんちゅうのもり」  
加賀屋小1年 白築 寛太



銀賞 「木」  
堀川小1年 寺岡 宏記



銅賞 「むしのすむもり」  
南住吉小1年 西原 和成



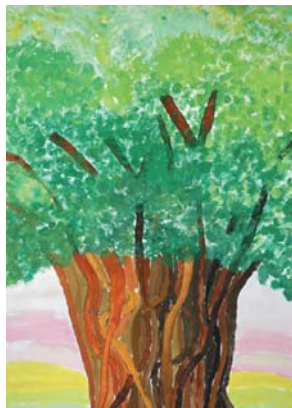
金賞 「大きな木」  
市岡小2年 前田 かれん



銀賞 「秋の森」  
中本小2年 川嶋 彩生



銅賞 「大きなクスノキ」  
伝法小2年 高阪 帆乃夏



金賞 「ふしぎガジュマル」  
巽南小3年 山根 基寛



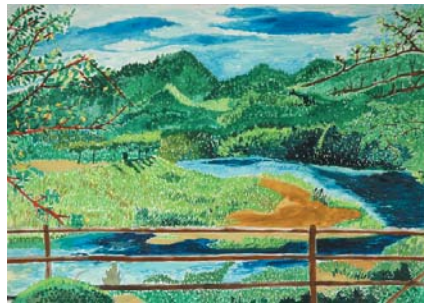
銀賞 「しぜんのもり」  
玉造小3年 濱本 佑希



銅賞 「新しい森をみんなでつくる」  
中本小3年 大門 一輝



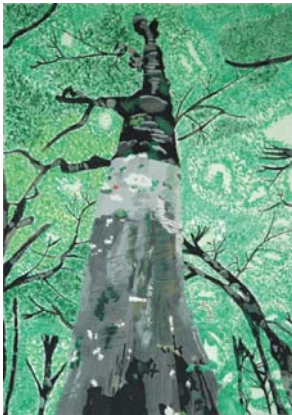
金賞 「森の生きもの」  
塚本小4年 杉山 拓巳



銀賞 「森と木の絵」  
加賀屋小4年 磯部 俊幸



銅賞 「みどりいっぱいのもり」  
中津南小4年 畠 裕大



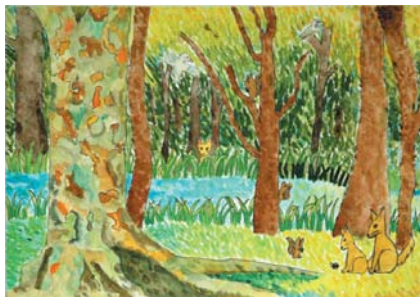
金賞 「森と木」  
玉造小5年 山地 伽奈



銀賞 「赤マツいっぱい樹海」  
阿倍野小5年 北川 友弥



銅賞 「自然と緑」  
巽南小5年 森脇 未来



金賞 「森林」  
玉造小6年 守屋 彩加



銀賞 「生きる大木」  
塚本小6年 佐藤 未来



銅賞 「森」  
姫里小6年 高野 しおり

## 総評

審査委員長 山田 倫子

「森と木の絵画コンクール」も第6回目を迎えました。表題に対して、大阪市内の小学生のお子様達も良く理解し、観察し、表現をしようと努力する力が観て取れる様になりました。

平成19年度、大阪市立の小学校39校より、1222点の参加作品を、一次審査で全作品に渡り、表現内容、色彩のバランス等を各学年別、細部に渡り審査、後、学年別に賞対象を選別致しました。

大人の方が手を入れたであろうと思われる作品もありましたが、ごくわずかで、作品に対して邪魔になるほどではありませんでした。

親が子供に関心を持つことは大切なことです。ただあまりにも子供の心理に深く入りこむ事は子供の心を傷つける事にもなるでしょう。

今回はそこまでの作品もなく、一日目は終了、二日目は、各学年別に賞候補作品を陳列、局長他各部長等で金、銀、銅、佳作を選出しました。

選別時においても賞の優劣を競う作品も有りました。

低学年から高学年に行くほど、表現の差、色彩の差が出て来たことも、各学年の成長を見る思いでした。

# 民有林と国有林が連携して針広混交林へ誘導するための現地検討会を開催

計 画 課

国有林における森林整備に当たっては、国有林の立地や地形等の自然条件等に応じて、100年先を見通した多様な森林づくりを進めることが求められています。とりわけ、景観の保全や野生鳥獣との共生等を図る観点から、スギ、ヒノキ人工林についても、必要に応じて針広混交林へ誘導することが必要となっています。

しかしながら、そのための施業技術は未だ確立されていない状況にあります。

そこで、当局では、針広混交林に向けた技術的課題等について幅広く意見交換を行うため、11月13日高野山国有林内において、京都府立大学の田中和博教授、森林総合研究所関西支所の大住克博委地域研究官を交え、滋賀、大阪、奈良、三重、和歌山の各府県及び和歌山県森林組合連合会の担当者と当局の関係者の55人が参加し、針広混交林施業の取組状況と課題及び今後の進め方などについて検討を行いました。



検討会の様子

現地検討会は、検討対象林分である高野山国有林228林班が一望できる林道上を会場として行いました。まず、計画課の森林施業計画の編成担当者から、9月に実施した現地調査の概要、針広混交林の考え方、誘導指針のイメージを説明しました。

当日の会場は、標高が約9百メートルの日陰という悪条件ではありましたが、調査林分全体に日が当たる時間帯であったため、林分内の3つの調査プロットをパノラマ風に鮮明に望むことができることとなり、参加者が共通のイメージを持って議論することができました。また、各府県からも針広混交林に向けた取組状況が紹介されました。

森林総合研究所の大住地域研究官からは、

検討対象地における針広混交林に向けた取組は評価できるが、一般的には単木的に針葉樹と広葉樹を混交させることは事業的な観点だけでなく生態学的な観点からみても困難である。

針葉樹と広葉樹の一定の集団がモザイク状になった針広混交林は妥当である。

針広混交林への誘導には技術的課題が多く、継続的なモニタリングが重要であるなどの意見が出されました。

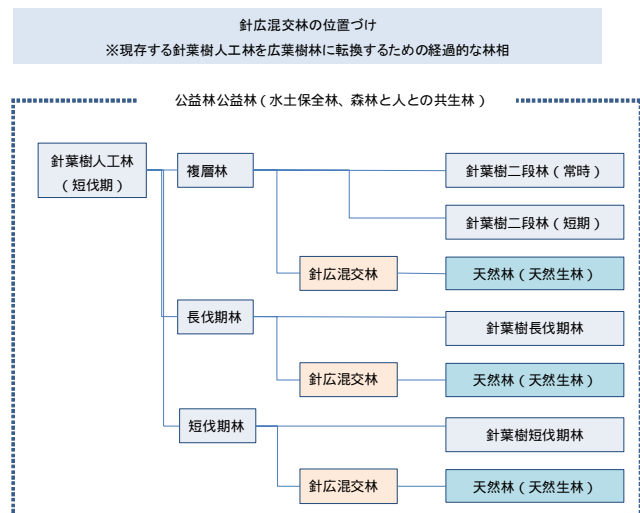
また、京都府立大学の田中教授からは、

広葉樹の発生を促すための強度間伐は、林内の光環境が変化し、害虫の大量発生につながる恐れもあり慎重な対応が必要である。

将来どのような樹種構成の森林を想定して施業を行うのか計画を立て、検証、改善を行う必要がある。

などの意見が出されました。

当局としては、引き続き幅広い森林・林業に関する関係者と連携協力して施業技術に関する意見交換、議論を通じて、互いの技術向上に努めていくこととしています。



# 但馬の電波中継の拠点「三川山奥」みかわさんおく 国有林

兵庫森林管理署

三川山奥国有林の主峰三川山、標高888mは、但馬地方のほぼ中央部を南北に連なる妙見山、蘇武岳からなる但馬山地の北端の美方郡加美町と豊岡市（旧城崎郡）界に位置し、山頂からは但馬の山々と日本海が望めます。

山頂にはNHKや関西放送各社の電波中継塔が林立し、さらに約1km南に隣接する水山国有林にもNTTや行政機関の無線中継塔があり、但馬地方の電波中継の拠点となっています。



香住港と日本海

国有林は全域が水ノ山後山那岐山国立公園の特別地域に指定されており、標高700m以上には樹高20m以上のブナを主体にした天然林を形成し、低地ではカタクリ、ニリンソウ等の野草やミツバツツジ、シャクナゲなどの植生が見られ、春には新緑と咲き誇るツツジ、シャクナゲを、秋には紅葉の景観を求めて多くの登山者が訪れています。

アクセスは、東側からスキー場である名神鍋高原を経てNHKの管理道路が山頂近くまで延びており、西側の香美町側からは県営の広域基幹林道三川線の開設（昭和47年度着工）が



山頂のアンテナ群

進んでいて平成20年度に完成する見込みです。

国有林の麓の谷沿いに山陰屈指の三川権現社があります。

三川山縁起鈔によると、この三川権現社は、第四十代天武天皇の時代（西暦674年）に役行者によって開設された古霊場で吉野山、三徳山とともに日本三大蔵王権現の一つに数えられており、5月3日の大祭には全国から山伏行者が集まり、知恵の火で煩惱を焼く、大護摩供養が行われるとあります。

また、天保3年（西暦1832年）3月には、吹雪が続いた後、一丈（3m）余りの積雪が春の日差しに解けて、山肌、立木をも飲み込む山津波が発生して権現社を押しつぶし、佐津



三川権現社

川沿いの村々を倒壊させ、一気に日本海まで流れ出した大災害が記されています。

三川山奥国有林は、三川山の山頂から三川権現社までの北向きにあり、浜坂森林事務所が管轄しています。

当国有林の面積は約420ヘクタールあり、全山が土砂流出防備保安林と水源かん養保安林に指定されています。

機能類型区分は水土保全林35%、森林と人との共生林65%となっており、林地崩壊等を防備するとともに、約360ヘクタールの天然林は主に風景林に区分し三川権現社の借景を考慮するなど景観保全に努めた施策を実施しています。

前述の広域基幹林道三川線の供用が開始された暁には、周辺の水山国有林、本谷奥国有林、銚子ヶ谷国有林が一本の林道でつながることになり、よりきめ細かな施策の実施が可能となることから開通を心待ちにしています。

1 機能類型・森林を管理する上で重点的に発揮すべき機能に応じて森林を区分したものを

2 施業・森林の取扱いは

〒六七一・二五七三

兵庫県赤粟市山崎町今宿一〇〇・一

TEL〇五〇・三一六〇・六一七〇

FAX〇七九〇・六二・四七九〇

<http://www.kinki.kokuyur.in.go.jp/>

hyougo/

箕面森林環境保全ふれあいセンター  
平成19年度の活動概要

当ふれあいセンターでは、大阪府と京都市にある国有林野を主な活動フィールドとし、自然再生への取組、森林環境教育活動や森林ボランティア活動への支援などを行っています。

**自然再生への取組**

「箕面体験学習の森」整備事業  
多様性豊かな里山の再生や生物多様性の向上を図るため、箕面国有林（大阪府箕面市）において、有識者、地域住民、森林ボランティア、関係行政機関職員等による検討委員会を開催し、今後の森林整備及びその利活用等の検討を行っています。



現地での検討の様子  
(大阪府 箕面国有林)

伊崎国有林におけるカワウ森林被害対策  
琵琶湖に面した伊崎国有林（滋賀県近江八幡市）では、カワウによる樹木枯死が発生していることから、本年四月、「伊崎国有林の森林管理におけるカワウ対策方針」を策定し、滋賀県や中部近畿カワウ広域協議会と連携した取組を行っています。



カワウの営巣に伴う枝折り、糞の付着により枯死したヒノキ林（滋賀県 伊崎国有林）

**森林環境教育支援活動**

森林環境教育プログラムの作成  
昨年度作成した子どもを対象としたプログラムを普及するため、森林ボランティア、小中学校教員、森林管理署等職員を対象として「森林環境教育体験ワークショップ」を開催し、

今年度は、高校生以上を対象としたプログラムを検討しています。



森林環境教育体験ワークショップ  
(大阪府 箕面国有林)



高校生向けモデルプログラム実践  
(京都市京北地域)

**グループ対抗里山デジカメ選手権の開催**

里山の再生・整備活動や森林環境教育に主眼をおき、「身近な森林（モリ）の再発見」をテーマとして、学校、森林ボランティア、企業、家族などグループを対象に三枚の組写真を募集

し、11月に里山デジカメ選手権公開審査会を開催し、最優秀賞、優秀賞を決定しました。



里山デジカメ選手権  
(滋賀県 大津市内)

**森林ボランティア活動への支援**

今後の森林ボランティアによる森林づくり活動の担い手を育成することを目的として、これまで参加が少なかった若年層や女性の参加による養成スクールを開催しました。



里山林の見学  
(兵庫県 川西市内)

各署等の取組・行事の紹介

「京都古事の森」育成イベントを開催

【京都大阪森林管理事務所】10月14日、鞍馬山国有林の「古事の森」において、京都古事の森育成協議会（会長・高井貴船神社宮司）の主催による「京都古事の森」育成イベントを開催しました。「京都古事の森」では、我が国の「木の文化」の象徴である神社・仏閣などの歴史的建造物の修復に必要な資材の供給を目指し、数百年かけた森林づくりを多くのボランティアの参画のもと進めています。今回は、一般応募の42名、鞍馬小学校の小学生6名、合計48名に参加頂き、苗木をシカの食害から守るために取り付けてあったヘキサチューブ（プラスチック製の筒）を外し、苗木を麻ひもで支柱に固定する作業を行いました。



数百年後の森に思いを馳せて

参加者は、急斜面での慣れない作業に戸惑っている様子でしたが、次第に要領を得て、手際よく作業を進め、汗をかきながら、数百年後の森に思いを馳せていました。

氷ノ山の名瀑「羊ヶ滝」の散策道を整備

【兵庫森林管理署】11月4日、氷ノ山中腹の標高約900mの坂ノ谷国有林内にある羊ヶ滝周辺において、ボランティアによる散策道の整備を行いました。

羊ヶ滝は、高さ約70mの二段滝で、周辺はブナ、トチノキ、スギなどの森林地帯の岩盤から清流が流れ、二つの流れが合流する様子が漢字の「羊」にしていることから名付けられたと言われています。



羊ヶ滝と参加者



作業風景

当日は、国有林退職者の会山崎支部、森林に親む会、宍粟五十名山選定委員、安富・山を歩こう会、当署職員など34名が参加し、約360mの散策道の整備に汗を流しました。

今回の散策道の整備により、昨年実施した駐車場を含む多目的広場の整備と合わせ、氷ノ山の名瀑「羊ヶ滝」へのアクセスが一段と容易になり今後、市民の森林レクリエーション等への利用が期待されます。

遊々の森で森林教室を開催

【三重森林管理署】10月20日、「遊々の森」（焼尾国有林）で伊賀市教育委員会が主催する子どもチャレンジ教室の一環として伊賀市の小学1年～5年生の27名を対象に森林教室を開催しました。

秋晴れの下、当署職員による森林の働きについての説明及び「森からの贈り物」の紙芝居の後、林内に入り除伐作業の体験をしました。

児童らは懸命にノコギリをひき、大きな木が倒れると「やったー」などと歓声を上げていました。子供達にとっては初めての体験であり、「ノコギリをひくのが大変だったけど、またやってみよう」との感想が聞かれました。作業後は、職員及び地域の青少年育成指導員の指導でサクラの枝

を使ったキーホルダーづくり（モックン）に挑戦し、オリジナルのキーホルダーを作成しました。

このチャレンジ教室は子供達の自然体験や文化体験活動を通して豊かな情操を養うことを目的に年8回程度開催されており、今回は、「生き生き学びの森」をテーマに、子供達が森林と身近に接し、森林とのふれあいを通じ森林・林業の重要性を学び併せて心身の健全な発達や生きる力を育むこととしており、主催者からは今回の教室を契機に毎年実施してほしいとの要望がありました。



森林の働きについての説明に聴き入る児童

## 私の意見

# 緑豊かな里山林を後世に

広島県東広島市長 藏田 義雄



東広島市は広島県の中央部に位置し、瀬戸内海にも面しております。総面積は6万3532ヘクタールを有し、広島県の約7・5%を占めております。人口は約18万2千人で、冷涼な気候と名水に恵まれ、古くから酒造りの町として栄えている西条は、皆様、良くご存知のことと思います。

昭和と平成の二度の合併を経て、現在に至っております。昭和49年4月、賀茂郡内の4町が合併し、賀茂学園都市建設、広島中央テクノポリス建設の二大プロジェクトにより、社会基盤や産業基盤の整備が進みました。さらに平成17年2

月に周辺の5町と合併し、未来にはばたく国際学術研究都市を目指し、豊かな自然環境、文化、歴史を活かしたまちづくりを進めております。地域産業の活性化に結びつく企



写真：(右) 憩いの森公園からの市街地遠望  
(上) 西条の酒蔵風景



業の立地により、全国屈指の成長を遂げ、製造品出荷額等が1兆円を越え、県内第3位となるなど、県央の中核拠点都市となりました。

一方、林業につきましては、本市の森林面積は3万9509ヘクタールあり市総面積の約63%を占めておりますが、その内、民有林面積は3万6700ヘクタールでこの内、人工林は5400ヘクタールで人工林率は約15%と低く施業の集約化、効率化が求められております。天然林面積は3万7000ヘクタールで、大部分がアカマツ林です。賀茂台地の象徴はアカマツ林で、松茸の産地でしたが、松くい虫被害や手入れ不足により、年々収穫量は減少しております。そうした中、今年度から、手入れ不足となっている森林を県民皆



ボランティアによる森林整備活動の様子

の財産として守ろうと広島県の森づくり県民税を財源とする広島県の森づくり事業が始まりました。本市もこの事業で、身近なアカマツ林をはじめとする里山林の整備を進めていく予定にしております。里山林はかつて、私たちの生活と深い関係がありました。今では、利用することが少なくなり放置されています。しかしながら、環境問題や社会貢献活動への意識の高まりとともに、市内で森林整備に取組む団体が増えてきており、大変嬉しく思っております。本市としても可能な限り、森林所有者だけでなく地域やボランティア団体、企業等、多様な主体による森林整備を支援したいと考えております。市民に潤いや癒しを与えてくれる緑豊かな里山林は本市にとりまして貴重な財産で、後世に引き継ぐことは、重要な私共の使命だと考えております。

最後になりましたが、国有林野につきましても公益的機能の増進や地球温暖化防止等、率先した森林整備をお願いすると同時にかけがえのない森林の保全への取組みを今後とも展開して参りたいと思っております。